

異質な近代化：EASS 2016 による日本と中国の配偶者選択の分析

OLI Wenwen (立命館大学大学院)

1. 目的と背景

本報告の目的は、大規模データを用いて、日本と中国の配偶者選択の特徴及びその異同を捉えることである。近代化論によると、雇用労働化や高学歴化に伴い、子が親からの経済的自立性を獲得し、アレンジ婚から恋愛婚への移行が共通の傾向としてあらわれる。しかし、アレンジ婚から恋愛婚への移行には異なる社会でバリエーションがあり、移行のプロセスは社会文化的要素に規定されるという点も指摘された (Tsutsui 2013)。このように、近代化論では包摂し難い配偶者選択の軌跡を、地域比較を通じて照らし出すのが本研究の目的である。具体的には、儒教的な家族観を共通しながら、近代化の中で異なる標準家族を経験してきた日本社会と中国社会を対象に、地域間での配偶者選択の共通点や違いを明確にすることによって、家族の近代化についての新たな知見を見出すことを試みる。

2. データと方法

本研究で使用するデータは East Asian Social Survey 2016 である。分析方法はロジスティック回帰分析であり、個人の学歴・性別が配偶者選択に及ぼす影響は国地域によって異なるかどうかを調べるために、地域ごとに分析を行った。また、有意な地域差があるかどうかを調べるために、補足的に交互作用モデルを採用した。

3. 分析結果

分析の結果として、(1)日本と比べると、中国の配偶者選択はアレンジの傾向が強く、結婚を決める際の親の影響が大きい傾向が見られた；(2)日本においても中国においても、男性の方が女性より、結婚を決める際に親の影響を受けにくい傾向が見られた。また、中国においてのみ、高学歴層の方が親の影響を受けにくいという傾向がみられた；(3)性別の影響は日本においてより顕著であり、学歴の影響は中国においてより顕著であることが示された。(図 1-3 参照)

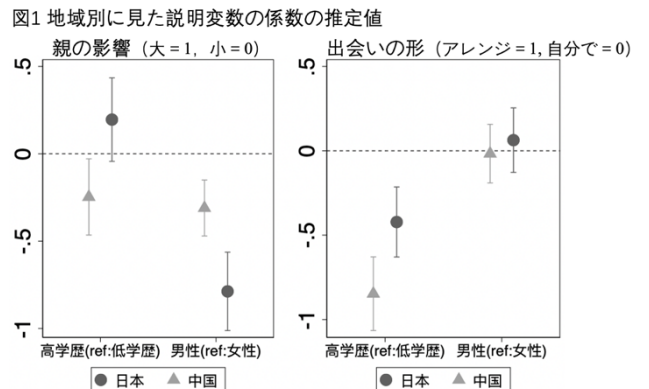


図2 「親の影響が大きい」の予測値 (選択確率)

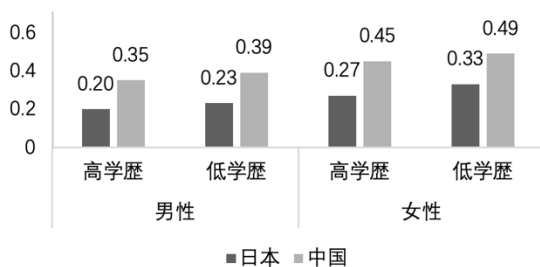
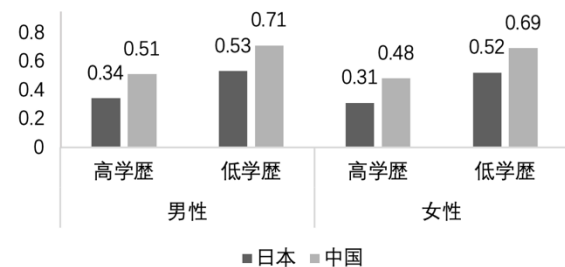


図3 「アレンジされた出合い」の予測値 (選択確率)



【参考文献】

Lui, Lake, 2019, "Filial Considerations in Mate Selection: Urban and Rural Guangdong in the Post-Mao Era," *Modern China*, 009770041988869.

Tsutsui, J., 2013, "The Transitional Phase of Mate Selection in East Asian Countries," *International Sociology*, 28(3): 257-76.

筒井淳也, 2018, 「1960年代以降の日本女性の結婚選択」 荒牧草平編『2015年SSM調査報告書2 人口・家族』2015年SSM調査研究会.

キーワード：配偶者選択、親の影響、ジェンダー差